

ODIP 4.5 修正パッチ (P1040502006364) リリースノート

2025/9/10

(株) インテリジェント・モデル

ODIP は、(株) インテリジェント・モデル社の登録商標です。

本書に掲載された情報に基づいた行為の結果として発生した損害、利益の損失、経費などについて、(株) インテリジェント・モデルならびに本書の製作関係者は一切の責任を負いません。

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部を無断で転載・複製することは法律で定められた場合を除き、禁止されています。

目 次

A. 変更内容	4
1. Snowflake のキーペア認証対応.....	4
2. job.jvm.parameter に指定するオプションの改定	5
3. バイト数を扱う関数で使用するエンコーディングの改定.....	5
B. パッチ適用による影響	6
1. バイト数を扱う関数で使用するエンコーディングの改定による影響.....	6
C. パッチの適用方法.....	6
1. ライブラリファイルの更新.....	6
2. パッチ適用後の確認.....	7

A. 変更内容

1. Snowflake のキーペア認証対応

キーペア認証を使用した Snowflake への接続に対応しました。キーペア認証の対応にともない、データソース情報の入力方法と `snowflake.properties` の一部に変更があります。

(1) データソース情報

① ホスト名

従来どおりの Snowflake のアカウント識別子に加えて、次のオプションを追加できるようになりました。アカウント識別子と各オプションは;(セミコロン)で区切ります。オプションはいずれも省略可能ですが、省略した場合は `config/snowflake.properties` の対応する個所を直接編集する必要があります。

private_key_file

秘密鍵ファイルのパスを指定します。 `snowflake.properties` の文字列 “<private_key_file>” を置き換えます。

warehouse

ウェアハウス名です。 `snowflake.properties` の文字列 “<warehouse>” を置き換えます。

stage

内部または外部ステージ名を指定します。 `snowflake.properties` の文字列 “<loader.stage.name>” を置き換えます。

次はホスト名の入力例です。

```
cslbqfs-dl32653;private_key_file=/home/odip/prv.p8;warehouse=sfwh;stage=sfstage
```

② パスワード

暗号化した秘密鍵ファイルのパスフレーズを指定します。暗号化していない秘密鍵の場合、入力はありません。

(2) snowflake.properties の変更

次を変更しました。

- jdbc.url に private_key_file=<private_key_file>&private_key_file_pwd=<passwd> を追加
- loader.command に --private-key-path <private_key_file> を追加
- <warehousename> の変数名を <warehouse> に変更

2. job.jvm.parameter に指定するオプションの改定

- (1) odip.ini の job.jvm.parameter に -D、-X 以外のオプション（例えば、--add-opens、--add-reads など）を指定できるように改定しました。startjob コマンドの -config オプションにおける job.jvm.parameter の指定も同様です。
- (2) odip.ini で job.jvm.parameter="-Dfile.encoding=utf-8" のように値を引用符で囲っても実行時にエラーにならないように改定しました。
- (3) startjob コマンドの -config オプションに job.jvm.parameter を指定して実行した時、トレースログファイルの「無効なジョブ設定パラメタのオプション "job.jvm.parameter" が指定されています。」のワーニングメッセージを出力しないように修正しました。

3. バイト数を扱う関数で使用するエンコーディングの改定

- (1) Lenb 関数でバイト数を求める際に使用するエンコーディングを、他のバイト数を扱う関数（#Concatb、#ToCsv、#ToTsv、#Pad、#Substrb）と同じ方式に変更しました。従来は実行する OS や JavaVM のデフォルトエンコーディングを使用していましたが、入出力ファイルが存在する場合、そのファイルのエンコーディングを使用します。
- (2) バイト数を扱う関数で、文字列のバイト列変換で使用するエンコーディングは実行環境や入出力ファイルの有無によって異なりますが、固定でエンコーディングを指定できるよう以下のオプションを追加しました。

odip.ini の追加オプション

オプション	説明
job.function.bytestring.encoding =[encoding] (デフォルトは指定なし)	バイト数を扱う文字列操作関数が、文字列からバイト列への変換で使用する文字エンコーディングを指定します。指定しない場合は、OS や JavaVM で決まるデフォルトのエンコーディング、または入出力にファイルがあれば、そのファイルのエンコーディングで変換します。

B. パッチ適用による影響

1. バイト数を扱う関数で使用するエンコーディングの改定による影響

Lenb 関数を使用している管理単位において、入出力ファイルが存在し、そのファイルのエンコーディングが OS や JavaVM のデフォルトエンコーディングと異なる場合、Lenb 関数の戻り値が従来と異なる可能性があります。例えば実行環境が Windows で `job.jvm.parameter` に `-Dfile.encoding` を指定していないとき、UTF-8 のファイルに出力する処理で Lenb 関数を使用している場合に、マルチバイト文字に対する Lenb 関数の結果が変わる可能性があります。その場合は、対象のジョブの実行時に `-config job.function.bytestring.encoding` でエンコーディング（この例の場合は `windows-31j`）を指定すると同じ結果を得ることができます。

C. パッチの適用方法

本パッチは、次の ODIP 製品に適用してください。

- ☐ ODIP アドミニストレータ v4.5
- ☐ ODIP オペレーションマネージャ v4.5
- ☐ ODIP リポジトリマネージャ v4.5
- ☐ ODIP プロセスマネージャ v4.5
- ☐ ODIP リポジトリサーバ v4.5
- ☐ ODIP トランスフォーマ v4.5

1. ライブラリファイルの更新

実行中の ODIP 製品を終了し、ODIP_P1040502006364 フォルダに格納されているライブラリファイルを、表 1 のファイルのコピー先に上書きコピーしてください。

表 1 ODIP_P1040502006364 のフォルダ構成及びファイルのコピー先

ODIP_P1040502006364		ファイルのコピー先
	lib	
	ADM	ODIP アドミニストレータの lib フォルダ
	OPM	ODIP オペレーションマネージャの lib フォルダ

	RPM	ODIP リポジトリマネージャの lib フォルダ
	RPS	ODIP リポジトリサーバの lib フォルダ
	TFM	ODIP トランスフォーマの lib フォルダ

2. パッチ適用後の確認

パッチ適用後は、各製品を起動し、表 2 の確認方法に従って確認を行ってください。

表 2 パッチ適用後の確認方法

製品名	確認方法
ODIP アドミニストレータ	ヘルプメニューから“ODIP について”を選択し、表示されたすべてのビルド ID が 1040502006364 であることを確認してください。
ODIP オペレーションマネージャ	
ODIP リポジトリマネージャ	
ODIP プロセスマネージャ	
ODIP リポジトリサーバ	ODIP リポジトリマネージャのツールメニューから“ORMS サーバ情報”を選択し、“バージョン情報”タブを開き、表示されたすべてのビルド ID が 1040502006364 であることを確認してください。
ODIP トランスフォーマ	ODIP トランスフォーマを起動し、showserver コマンドを、オプションに“-info version”を指定して実行してください。表示されたすべてのビルド ID が 1040502006364 であることを確認してください。

以 上